4　本時のねらい

「表戸をふっとばして走り出した。」に着目して読み深めることをとおして、「医者さまをよばなくっちゃ。」「ねまきのまんま。はだしで。半道もあるふもとの村までー。」など前後の文章から根拠となる言葉をあげ、じさまを助けるために必死になっている豆太の様子や気持ちを想像することができる。

5　本時の展開

学習内容	教師の指導援助（・）評価規準（＊）
1　前時のふりかえりをする。	・　前時わかった豆太の人柄や気もちを確かめる。
モチモチの木にへんしんして、豆太のことがよくわかるように豆太の紹介文を書こ	
豆太の様子や気持ちを読み取ろう。	・　豆太の人柄や気もちを考えるために着目した言葉について「行動描写に着目した読み方」「文末の表現に着目した読み方」「情景描写に着目した読み方」など、読み方のよさを価値づける。
2　今日の場面から豆太の様子や気もちのわかるところ言葉を探す。 ・　「じさまぁっ。」 ・　むちゅうでじさまにしがみつこうとした ・　表戸を体でふっとばして走り出した。 ・　ねまきのまんま。はだしで。・・・・・	・前時までの臆病な豆太の行動として理解できる表現と、前時までの豆太では考えられない表現を比較しながら本時の課題をつくる。 「一人で夜にモチモチの木を見ることも嫌だった豆太がなぜ、戸をふっとばして走り出したのだろう。」
3　本時の課題をつくる。 表戸を体でふっとばして走り出した豆太の気もちを読み深めよ	児童は「じさまを助けるために必死だった。」という理由を挙げることが予想されるのでその証拠となる言葉を見つけていくよう働きかける。
4　課題について見通しをもち、一人読みをする。 ・「医者さまをよばなくっちゃ。」 ・ねまきのまんま。はだしで。半道もあるふもとの村までー。 ・真っ白い霜で、雪みたいだった。 ・なきなきふもとの医者さまへ走った などの言葉を証拠にして読む。	・「行動を表す言葉に着目する」「会話に着目する」など、読み方の手立ては掲示にし、利用する。 ・　一人読みでは、自分の考えの根拠となる文や言葉をはっきりさせてノートに書くように確認する。
5　全体交流をする。 ・豆太は、じさまを助けたいという必死な気持ちで表戸をふっとばして走り出したと思います。それは「ねまきのまんま。～」といところからわかります。それは、豆太がすごく寒いのに着がえもしないで、はだしで走っているからです。 ・豆太は、夜はこわくて仕方がないけど、じさまを助けたいという気もちで表戸をふっとばして走り出したと思います。それは「なきなきふもとの医者さまへ走った。」の所からもわかります。真夜中で寒くてこわいけど、ふもとまで医者様を呼びに行っているので、じさまのことを心から心配していたことがわかります。	・豆太は○○○という気もちで表戸をふっとばして走り出したと思います。それは、～というところからわかります。（なぜ～からわかるかという ・　根拠に挙げた文や言葉について、その理由を切り返して問う。 「なぜ○○○○が証拠になるの。」
6　課題についてまとめる。 表戸をふっとばして走り出したとき、豆太はじさまを助けるために必死だったことがわかりました。ねまきのまんま、はだしで走り出すくらい、他のことを考えるひまがないことがわかるからです。・・・ＢＣ	・全体交流の場では、根拠にした言葉から想像するために「豆太の行動と自分の体験とを比べた読み方」「前の場面とつなげる読み方」をしている姿を価値づけていく。
表戸をふっとばして走り出したとき、豆太はじさまを助けるために必死だったことがわかりました。前までの場面では一人で夜おしっこもできなかったのに、２キロもある暗い山の中を豆太は一人で走っているので、それだけ自分がこわいという気持ちよりじさまを助けたいという気持ちが勝っているとわかるからで	＊言葉と言葉をつないで読み、それを根拠にして、じさま助けたいという必死の思いから夢中で表戸をふっとばして走り出す豆太の気もちを想像して読んでいる。